

月	栽 培 管 理 (病虫害防除の追記も含む)
1	<p>【石灰の施用】 苦土石灰 200kg/10a 酸性土壌を是正する。 葉色の悪い園は微量元素不足が考えられるので、マルチサポート 80kg/10a を施用する。</p> <p>【整枝剪定】 一樹全体に光が当たるよう間伐から始め、隔年交互結実を踏まえて側枝の更新整理を行う。</p>
2	<p>【春肥施用】 (3月中下旬) 特選みかん配合 160kg/10a 施肥後、軽く中耕をおこなう。</p>
3	<p>【かいよう・そうか病対策】 病斑のある枝葉は、新葉が出てくるときに感染源となるので、剪定時に取り除いて園内から持ち出し、病原菌の密度を低くする。</p>
4	<p>【傷果対策】 収穫時の果実の傷の多くは、開花期の訪花昆虫(コアオハナムグリ・ケシキスイ類)によるものと、花びらからの灰色かび病と、強風による風スレがある。秀品率の向上のために、開花期の灰色かび病と訪花害虫の防除と防風対策を徹底する。</p>
5	<p>【夏肥施用】 (5月下旬・6月中旬) 特選みかん配合 200kg/10a 施肥後、軽く中耕をおこなう。 2回に分肥すると根焼けしにくい。</p>
6	<p>反射シートを使用するため秋肥が施用出来ない場合は夏肥を多くする。 樹勢の低下している樹では尿素の600倍を散布し樹勢の回復を図る。</p>
7	<p>【大津青島の摘果】 大津・青島は大玉果になりやすいので、隔年交互結実をして成り込ませる。 裏年の樹は7月中に全摘果をする。 表年の樹はこの時期の摘果を控え、10月下旬からの仕上げ摘果で上を向いた極大果だけを摘果する。</p>
8	<p>【寿太郎の摘果】 小玉果が多いので、早期の摘果が重要である。 生理落果後に内裾なりを中心に葉果比20~25に粗摘果し、9月に葉果比30~35に仕上げ摘果する。 夏季の過乾燥は肥大を抑制するので、敷きわら等で乾燥防止をする。</p>
9	<p>【品質向上】 ① 熟期促進を目的に、フィガロン乳剤の散布 満開後60日と80日の2回 3000倍 300$\frac{1}{10}$g/10a ② タイバックシートや美味シートの利用 敷設は8月中、取り外しは収穫前におこなう。 着色向上を目的の場合は、樹冠下に敷く。(部分被覆) 着色向上と増糖・除草を目的の場合には、園内全体に敷く。(全面被覆)</p> <p>【獣害対策】 電気柵、鉄網柵を園外周に設置する。定期的にメンテナンスを行う。</p>
10	<p>【品質向上】 浮皮の軽減を目的に、フィガロン乳剤3000倍を蛭尻期に散布 300$\frac{1}{10}$g/10a 夏期に散布した場合や、樹勢が低下している樹には散布しない。</p>
11	<p>【仕上げ摘果】 10月下旬に上を向いた極大果等を摘果する。</p> <p>【秋肥施用】 (11月上中旬) 特選みかん配合 120kg/10a 施肥後、軽く中耕をおこなう。</p>
12	<p>【収 穫】 8分色のものから2~3回に分けて区分収穫する。 収穫前に降雨が多い場合は果実が腐敗しやすいので、果実の管理・取扱いに注意する。</p> <p>【果実管理】 通常予措：コンテナへ8分目程度に入れ、総量の5%程度を減量(しおれ)してから浅箱に貯蔵する。 高温予措：着色促進と減酸を目的に、収穫直後に20℃で7日間果実を保温しておく。 果実の傷からくる腐れが早いので、再度選果をしてから貯蔵・出荷をする。</p> <p>【貯 蔵】 温度3~5℃、湿度85%を目安に管理し、朝夕の換気と定期的な腐敗果点検をおこなう。 ただし、0℃付近になると低温障害をおこすので、寒波時は貯蔵庫を密閉する。</p>